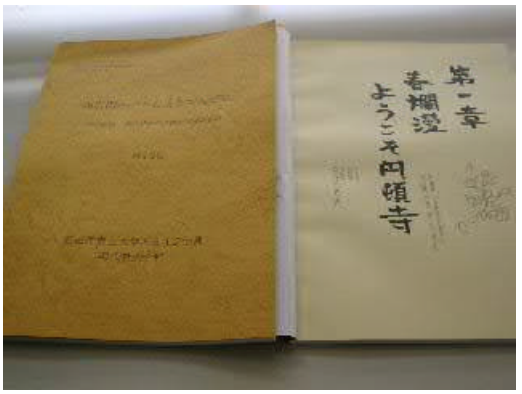
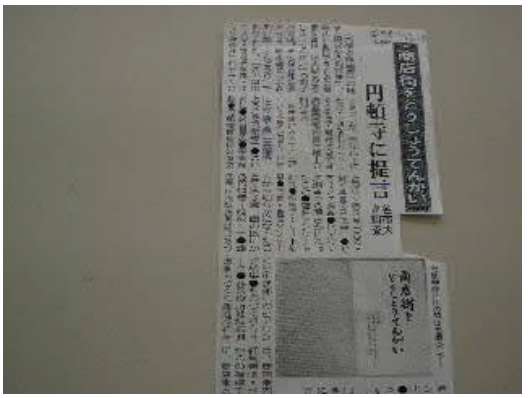
円頓寺商店街調査と「七夕まつり」張りぼて製作

昨年度の社会調査実習のテーマであった円頓寺商店街については、このレポートでも 2 回書いてきた。このたび調査メンバーの安井佑君が「七夕まつり」参加報告をレポートしてくれたので、その後の経過を含めて書いておこう。



5 月 5 日に「商店街をどうしょうてんかい」という調査報告書の報告会をやって、1 年間にわたる社会調査実習に区切りをつけた。なにかとお世話になった商店街の皆さんに報告書を配布して、空き店舗を活用した「ふれあい館えんどうじ」で報告会も開催でき、担当教員としてほっとしたものである。

その後、5 月 24 日付の「なごや西ホームニュース」が調査報告書をとりあげ、目次や提言などを詳しく紹介してくれた。やはり新聞の影響は大きいもので、読者から報告書をほしいといった要望が寄せられた。せっかく作った報告書が地元の人たちに読まれ、商店街の活性化やまちづくりに活用されれば、こんなに嬉しいことはない。



そして、「七夕まつり」への参加である。張りぼて製作記については、安井レポートを参照してもらいたいが、わたしも 30 日からの「七夕まつり」で「ゴン太くん」に会えるのが楽しみだ。社会調査実習が契機となって、学生たちが商店街に関心をもち、主体的に行事に参加してくれたことは、「地域と大学」の結びつきを強めたいと考えている私にとって望外の喜びでもある。なお参考までに、調査報告書に書いた「報告書刊行によせて」という拙文を載せておこう。

(7 月 21 日記)

「報告書」刊行によせて

社会調査実習で「商店街とまちづくり」を担当して 5年になる。今回は 11 人のメンバーが半年以上にわたって調査し、こうした分厚い報告書にまとめた。「名市大広報」にも書いたように、調査実習は暑い夏休みなどを利用して、商店街などでヒアリングやアンケート調査をして、報告

書にまとめるハードな作業である。最初は慣れない調査に戸惑いもみられたが、秋の中間報告会から報告書作成へとピッチをあげてきた。これも11 人のチームワークの賜物である。

今回なぜ西区の円頓寺商店街なのか。これには「わけ」がある。現在、西区役所の地域振興課で働く卒業生から、まちづくりや商店街を調査してほしいと「誘い」があった。この卒業生も在学中に、大学近くの博物館前商店街の調査で活躍した。調査実習の「経験」が現在の仕事に生かされているようで、教師として嬉しいかぎりである。

こんなわけで、今回は迷うことなく円頓寺商店街に的をしぼって、5 月下旬から調査を開始した。私も久しぶりに円頓寺を訪ねて、商店街の現状の一端を見ることができた。学生たちと平日の午後に商店街を歩いたが、人通りが少なく閑散としていた。あの七夕祭りの人込みとの「落差」に驚いた。この「落差」を縮める方策、商店街活性化の手がかりを見つけたいとの思いに駆られた。モータリゼーションがすすみ、郊外に大規模なショッピングセンターが乱立して、中心市街地や下町の商店街に空き店舗が続出している。規制緩和の大合唱やグローバルな競争の激化により、商店街の「衰退」に拍車がかかってきた。

商店街の「衰退」が叫ばれて久しいが、名古屋駅近くに位置する円頓寺も例外ではない。円頓寺はかつて名古屋でも有数の商店街であり、商店街の人たちからのヒアリングにもあるように、夜遅くまで人通りが絶えなかったという。それが「時代」とともに、多くの商店街のように活気がなくなり、空き店舗も増えてくる。商店街の「衰退」は、たんに商店街だけの問題ではない。商店街は生活に欠かせないコミュニティ・センターとして、地域づくりの担い手として、その社会的な役割は今後ますます高まるであろう。円頓寺商店街は再び活気をとり戻して、地域の「核」として期待できるのではないか、学生たちの調査を見守りながら考えたりした。

今回の調査では、商店街で活躍されている人たちからのヒアリング、あの暑い夏の閑散とした街頭での利用者、そして店舗・経営者の方へのアンケート調査に力点がおかれた。これらのヒアリングや調査結果などから、商店街に対する11の提案がまとめられている。調査や提言には未熟な点もあるが、商店街の活性化にすこしでも役立てば幸いである。

商店街では空き店舗の活用策が具体化されつつある。円頓寺をはじめとした西区のまちづくりの動向を今後とも注目していきたい。さいごに、円頓寺商店街や西区役所をはじめとして、今回の調査にご協力していただいた方々に、担当者からもお礼を申しあげます。

2003 年 2 月

社会調査実習「商店街とまちづくり」担当　山田明